

施策評価シート (評価対象年度：平成30年度)

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	4 子どもの居場所づくり	② 施策番号	7404
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	4 だれもが、いつでもどこでも学べる生涯学習推進のまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	3 青少年、子どもの健全育成		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
教育委員会	青少年センター		

2. 施策の現状把握

[1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	18歳以下の子ども
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	18歳以下の子どもに安全・安心に集える居場所を提供する。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	学校、行政、地域コミュニティが連携して青少年を健全に育成していくことが求められている。

[2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 利用者(青少年センター・旧新家幼稚園) 計算式	人	安全・安心な居場所として利用してもらっている青少年センター等の利用者数により、居場所の提供がどの程度できているかわかる。
② 計算式		
③ 計算式		

指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	備考	
① 利用者(青少年センター・旧新家幼稚園)	人	目標値	9,000	9,000	9,000	7,000	8,000	青少年学習活動事業の一部を元気広場推進事業へ移して記載。 ※R1見込みからは市民交流センター分も加算
		実績値	8,685	6,096	8,282	—	—	
		達成率	96.5%	67.7%	92.0%			
②		目標値						
		実績値						
		達成率						
③		目標値						
		実績値						
		達成率						

[3] 施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標				総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化	
		指標名	単位	H29実績	H30実績	R1見込	H29実績	H30実績	R1見込	総合評価		今後の方向性
1	子ども元気広場推進事業	参加者数	人	6,096	8,282	7,000	9,664	9,689	16,635	B	イ b	◎
2	施設維持管理事業	修繕費	千円	12	359	318	8,212	12,014	8,606	C	イ a,d	
3												
4												
5												
6												
7												
8												
計	2						17,876	21,703	25,241			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのよう貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	子ども元気広場推進事業を実施することにより、子どもたちにとって安心・安全な居場所を提供できる。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	平成29年度途中から登録制度を開始したことなどから、利用者が一時的に減少したが、平成30年度からは、台風で休館した時期もあったが、ほぼ影響なく利用してもらってきた。令和元年度から、新青少年センターと市民交流センターでの児童館的事業も始まったが、オープニングイベントまでの約3週間は認知度が低く、来館者がいない日もあったことから、見込み値を押さえている。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	子ども元気広場事業においては、市民ボランティアの協力が重要であり、事業の充実にはボランティアに協力してくれる人材不足が課題となる。理想としては、地域の市民ボランティア中心の子どもの居場所となればよいが、現状は市がメインとなり、市民に手伝いをしてもらっている状況。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	青少年センターや市民交流センター、各小学校など様々な場所で居場所づくりを行うことができ、適正。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	保護者の働き方や、家族の形が多様化する中で、子どもたちが放課後に安全に安心して過ごせる場所の提供は国全体として望まれている事業であり、さらなる重点化が必要。

4. 一次評価(所管課評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
一次評価	B	行政のみで居場所を維持するのは人員的にもコスト的にも難しく、いかに市民ボランティア等を取り込んで、地域ぐるみの見守り体制を作っていくかが課題であり、最も難しい点である。	

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	現在の居場所について、利用する子どもたちの意見を聞き、居場所の内容を充実させる。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	全校区で居場所づくりができるよう事業の拡大を行う。
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	既存団体も含め、居場所の重要な担い手となる組織との連携。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
二次評価	B	子ども元気広場の開設を通じた居場所づくりが適切に実施されている。 今後の市内各所における事業展開について、関係各部署とも連携し展開の検討を進められたい。	